

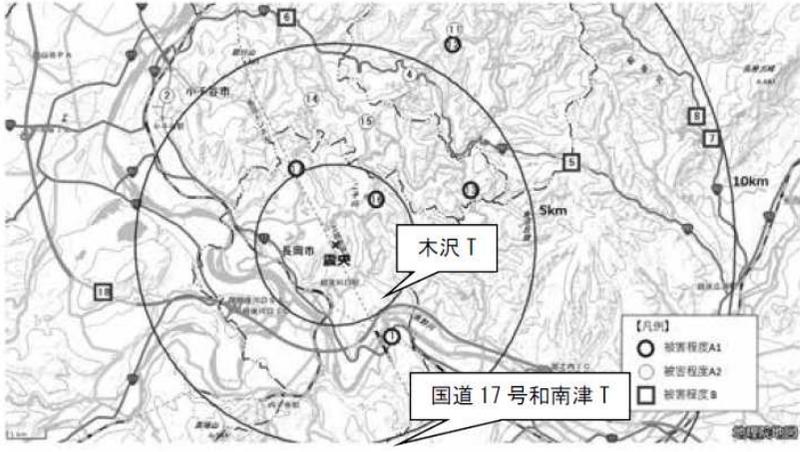
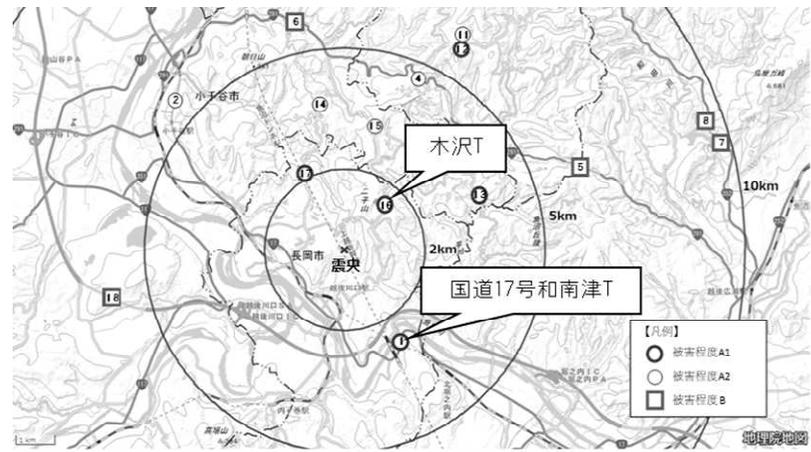
トンネルライブラリー33 トンネルの地震被害と耐震設計  
 -山岳・シールド・開削トンネル-

正誤表

2023/6/16

頁	行数 図表番号	誤	正
22	表-2.2.1	●伊豆大島近海地震(1964)	●伊豆大島近海地震(1978)
23	表-2.2.2	●伊豆大島近海地震(1964)	●伊豆大島近海地震(1978)
24	表-2.2.3	●伊豆大島近海地震(1964)	●伊豆大島近海地震(1978)
25	上から11～12行	「参考1.4 2004年新潟県中越地震」を参照	「参考1 山岳トンネルの地震被害事例」を参照
26	図-3.1.1	<p>148本のうち93本が被災(鉄道のみ)  <small>注) 丸付き数字は「参表-1.1.1 関東地震で被害を受けたトンネル一覧」のうち大被害のトンネル</small></p>	<p>148本のうち93本が被災(鉄道のみ)  <small>注) 丸付き数字は「参表-1.1.1 関東地震で被害を受けたトンネル一覧」のうち大被害のトンネル</small></p>
127	上から7行目	16) 東日本・中日本・西日本高速道路：設計要領 第三集 トンネル 本土工建設編, p.94, 1985.	16) 日本道路公団：設計要領 第三集 第9編トンネル, p.94, 1985.
127	上から10行目	18) 東日本・中日本・西日本高速道路：設計要領 第三集 トンネル (1)トンネル本土工建設編 (第二東名・名神高速道路), p.101, 2001.	18) 日本道路公団：設計要領 第三集 トンネル (1)トンネル本土工建設編 (第二東名・名神高速道路), p.101, 2001.
198	6～7行目	鉄道構造物等設計標準・同解説(耐震設計) 11)	鉄道構造物等設計標準・同解説(耐震設計) 12)
265	表-6.3.1	$f'_{yk}$	$f_{yk}$ (ダッシュなし)
270	下から2行目	側から左側へ採用させた場合は左右対象の同じ範囲～	側から左側へ採用させた場合は左右対称の同じ範囲～
271	図-6.3.10	$M_d < M_y$ $M_y < M_d < M_u$ $M_u < M_d$	$\gamma_i \cdot \phi_d < \phi_y$ $\phi_y < \gamma_i \cdot \phi_d < \phi_m$ $\phi_m < \gamma_i \cdot \phi_d$

271	図-6.3.10	N.G.箇所	NG箇所
274	図-6.3.16	Md < My My < Md < Mu Mu < Md	$\gamma_i \cdot \phi d < \phi y$ $\phi y < \gamma_i \cdot \phi d < \phi m$ $\phi m < \gamma_i \cdot \phi d$
275	3行目	地震力を右側から左側へ採用させた場合は左右対象の同じ範囲～	地震力を右側から左側へ採用させた場合は左右対称の同じ範囲～
281	図-6.4.8 (a)		
285	図-6.4.13 (a)		
302	下から11行目	構造物の相対変位が開削トンネルは75mm程度	構造物の相対変位が開削トンネルは69mm程度
339	上から1行目	参考1.3 1996～2003年 台湾集集地震・伊豆諸島北部地震・鳥取西部地震	参考1.3 1996～2003年 台湾集集地震・伊豆諸島北部地震・鳥取西部地震
340	上から14行目	1.3.3 2000年鳥取西部地震 <sup>2)</sup>	1.3.3 2000年鳥取西部地震 <sup>2)</sup>
340	上から16行目	鳥取西部地震は,	鳥取西部地震は,

351	参図-1.4.5		
376	上から1行目	参考1.7 2008年 岩手沿岸北部地震	参考1.7 2008年 岩手県沿岸北部地震
409	34行	最低設計基準地震動 (LDBE)	運転基準地震動 (OBE)
409	35行	再現期間約100年の確率論的地震動で、供用期間100年以内に約超過する確率は63%.	運転基準地震動は、再現期間が50年の確率論的地震動であり、100年間に86%の確率で超過する地震動に相当する.